

# \*\*\* 今日の健康 (3月) \*\*\*

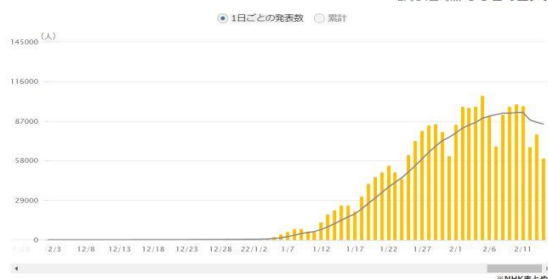
## < コロナ7波はあるのか >

3月2日新型コロナウイルスの政府分科会の尾身会長は衆議院予算委員会で「第6波の感染者数が下がらないまま第7波に入る可能性も否定できない」との見方を示しました。

日本国内の感染者数 (NHKまとめ)

NHK

2月14日時点 60142人



2022年1月新型コロナウイルスのオミクロン株はこれまで経験のない規模の感染拡大となっていました。毎週のように何倍にもなっていた感染拡大の勢いは、2月初旬以降に弱まったようにもみえますが第7波につながるのでしょうか

感染が広がるスピードはいくつもの要因によって決まりますが、1人が何人に感染を広げるか、いわゆる感染力（再生産数）もその1つです。オミクロン株がそれまでの何倍ものスピードで広がった原因は、感染力（再生産数）が何倍にも高まったことにあるのではないかと考えられていました。

2021年12月8日の厚生労働省の専門家会合では、オミクロン株の流行が最初に確認された南アフリカのデータの分析結果として、オミクロン株の「実効再生産数（さまざまな対策なども織り込んだ上で1人から平均で何人に感染が広がるかを示す数値）」は、デルタ株の4.2倍になっているという推計値が報告されました。

ところがその後、海外の研究でオミクロン株の最も大きな特徴で感染拡大に大きな影響を及ぼしたとの、「世代時間」がデルタ株に比べて大幅に短くなっていることではないかという試算結果が公表されました。

「世代時間」とは、感染してから別のの人に感染させるようになるまでの時間のことで「世代間隔」とも言います。

デルタ株までの新型コロナウイルスではこの「世代時間」が5日程度とされていたのに対し、オミクロン株では、「世代時間」が2日程度に短くなっている可能性があることが分かりました。

例えば、デルタ株とオミクロン株で感染力が同じと仮定して、両方とも「1人から2人に感染させる」とした場合、デルタ株では1人の感染者から5日目には2人に広がります。オミクロン株では1人の感染者が2日目に2人、4日目には4人で合計で6人です。5日目の時点で感染者数を比べると、3倍に多くなっています。つまり、もし「世代時間」が同じ5日だと想定して考えていると、オミクロン株は、1人から感染させる人数、再生産数が「6」と、デルタ株よりも3倍も感染力が強いウイルスにみえるのです。

オミクロン株は、「世代時間」が短く、短期間のうちに次々と感染していくため、短期間で感染者が多くなっており、今までの感染症対策をすり抜けやすく、クラスターを発生し易いと考えられます。現時点で「第6波」のピークを迎えている可能性があっても、感染が減るスピードは非常にゆっくりとなっていることが、感染者数が高止まりしている原因と考えられます。3回目のワクチン接種が進んでいないことも原因と考えられます。

3月4月には卒業や入学、入社や異動、歓送迎会などのイベントが多くあり、人と人との接触は確実に増えることから、“第6波”の感染者数が下がりきらないうちに、“第7波”が始まる可能性があります。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏